

料金後納

ゆうメール

MACNEWS

〒616-8156

京都市右京区太秦西野町20

TEL 075-871-0374. FAX 075-882-3777

Eメール mac.terakoya@gmail.com

URL <http://www.mac-terakoya.com>

今月号の内容

※ ある日の授業風景

※ 松田先生旅行記

(MAC真成塾の新しいスタッフです。塾長は沖縄にも行ったこと無いのに行った外国40数カ国！)



「こんにちは」

「はい、こんにちは」

「こんにちは」

「こんにちは」 (生徒の声の大きさに合わせています)

「声が小さいな～、また彼女に振られたんか？」

「振られてへんわ、彼女っていいひんもん」(元気な声になりました)

「こんにちは」

「いらっしゃ～い」(時々このような対応も)

「……………」

「あれっ、誰か黙って入ってきてへん？」

「こんにちはって言うた」

「聞こえなかったよ」

「でも言うたもん」

「残念～、挨拶は相手に聞こえないとダメ！ もう一度入り直し！」

「こんにちは」

「はい、こんにちは、次から大きな声で言おうね」

「はい」

「OK」

「〇〇、散髪に行った？」

「〇〇、髪短くした？」

相手に関心を持つことが、コミュニケーションの第一歩です。この後、子供たちとの次の会話が始まります。学校であったことや、家であったことなど・・・勉強に取り掛かる前に、気持ちを解きほぐしているのです。

コミュニケーションの基本は、相手の話をきちんと聞くことです。今の若者には、論理的に話を組み立てられても、本当の意味で他者とのコミュニケーションがとれない、そんな人が増えています。子供もしかり・・・自己主張は出来るが、人の言うことに耳を貸さないコミュニケーション能力の欠落している子がたくさんいます。

MACは、対話重視の自立型個別授業形態をとっていますが、授業中も出来るだけ教科内容の指導だけでなく、前にいる生徒の目や顔の表情を見て、それに見合った声掛けをしたいからです。

「先生、宿題忘れました」

「忘れた？ MACに来る前に宿題してへんか？」

「・・・・・・・・」

「どうしたら、忘れへんと思う？」

「前の日にする」

「そうやな、またはMACから返ったら直ぐにする。次の日まで何ページしてくる？」

「2ページ」

「よっしゃ、今度忘れたら、そのまますぐに家に帰ってもらおうで！」

「はい」

「先生、トライアルの感想文忘れました。僕は書いていたんやけど、お母さんが・・・」

「言い訳するな！ MACから返った時にすぐにお母さんに渡したらいいのと違うの？」

お母さんが悪いのと違って、自分が悪いのや、次からはすぐにお母さんに出すように。

はい、今日はトライアルはなし、その分ソロバンで頑張ってもらおう」

「はい、時間計ります、用意して！」

「ちょっと待ってください」（いつも待ってくれと言う生徒がいます）

「用意、始め！」

「〇〇、タイム練習しているのに、何で先生と目が合うの？ 集中してやりなさい！」

「出来ました」

「ウワー、きれいに描けました、ドラえもんの素晴らしいの“はんこ”を押しま〜す」

「出来ました」

「あれっ、これ何か知らんの？ 国語辞典持ってきてくれる、はいこのページに答え載っているからね！」

「何か分かった？」

「・・・・・・・・」

「あれ、黙ってではどっちか分からないよ、どういえばいいのかな？」

「は〜い」

「もう一度返事し直し！」

「は〜い」

「返事はね、短く大きな声でハイと言うの、もう一度言い直し」

「ハイ」

（低学年の子は、この指導で、以後どの子もしっかり「ハイ」と言える子になります。

「ハイ」と返事できることも、コミュニケーションの基本なのです。

上記のやり取りのように、分からない時も、答えを教えることはしません、辞典で答えを探してもらいます。その結果、分からない漢字や語句が出てきた時には、自分で調べることが習慣化されてくるのです。すぐに答えを教えることは、子ども達にとって親切ではなく、自立・自律学習にとっては、いらぬ“おせっかい”なのです）

ガッチャーン

「〇〇商店、開店です。こんな所で店を開かないように！」（色鉛筆のケースをひっくり返しました）

「この字、何と書いてあるのか分かりませ〜ん」

「8」

「ダメで〜す、説明しなければならないのは。誰が見ても分かる字を書かないと、書き直し！」

「これなら、OK」

「A級計ります」（算数・数学で威力を発揮する小数暗算問題です。制限時間は2分）

「出来ました」

「48秒」

「出来ました」

「1分15秒」・・・・・・・・

「読み上げ暗算しま〜す」

「読み上げ算します」・・・・・・・・（この間、自分が出来なくても話すことは厳禁です）

そして、論語、昔話と続きます。

「6年生、小さい子が手を挙げているよ。先生にいちいち言われなくても、分からない漢字を教えてあげないと。言われてから動くのではなく、言われる前に動くように！」

（指示されなくても、状況を見て動けるように、6年生にはこのような声かけをしています。昔話では、1週目は6年生の生徒が、低学年の子に分からない漢字を教えることになっています・・・・・・・・過去には2年生の子に教えてもらっている6年生もいましたが(^_^;)）

「10マス計算、始めます」（オリジナルの四則計算です、割り算は割り切れれば0、割り切れない場合は余りを書きます・・・・・・・・制限時間は2分）

「出来ました」

「38秒」

・・・・・・・・

「出来た」

「1分59秒」

「出来た」

「2時間5分」・・・・・・・・2分を超えると、タイムは時間表示になります。

「それでは、トライアル、用意、始め！」

3分経過すると、点描写のページに入ります。

「椅子を引いて、背筋を伸ばして、用意始め！」

そして、順調に授業を進められた生徒は、最後に「かな練習」をして終わります。

「ソロバン練習、もう1ページやろうか？」

「・・・・・・・・」（いやそうな顔をしています）

「よっしゃ、そしたらじゃんけんをしよう。〇〇が勝ったら、今日はこれで終わり、でも

「負けたらもう1ページな！」

「分かった」

不思議なことに生徒とのじゃんけんの勝率は90%、ほとんど勝ちます。本当は負けても良いと思ってやっているからでしょうか・・・

負けた生徒は、諦めよく文句を言うこともありません。この時の1ページは驚くほど早くし終えます。

「点検しま～す、各自の引き出しから問題集などすべて持ってきてください」

このようなことをするのは、ある伏線があります。

おかしい？ あの二人、早く終わりすぎ！ 苦手なものをスルーしているに違いない。

正解でした。苦手な「育脳ことばのワーク」をしていなかったのです。

そこで、他の生徒も点検となったのです。

「あれっ、この日付、何でこんなに日があいているの？」

「忘れていました」

「英語やっているのはな～、中学生になった時困らないようにやっているのやで、分かっているか？ 次から気を付けるように！」

どのワークにも、日付が入っているのをご存知でしたか？

当初は、日付は入れていませんでした。ところが上記のようなことが頻繁に起こってきました。日付がないといつやったのか分からなかったからです。

「さようなら」

「はい、さようなら」

「先生、〇〇まだ？」

「〇〇、今日はお泊まりやで、待っていてもアカンよ、先に帰ったら」

「泊まるの、イヤヤ」

「だったら、集中してやったら！」

毎日が目をキラキラ輝かせ元気いっぱいの生徒との楽しいバトルです。

「早くしなさい」が、子ども達の「考える力」の育成をストップ！！

・・・この言葉、お母さんが子どもに対して一番多く使う言葉
ご飯を食べるとき、服を着るとき、靴を履くとき e t c

子ども達にとっては、やることは決まっています。だから何も疑わずに、早くやりなさいということになり、自分で考える力が育たないのです。

このように、自分で考え、選択し、行動することのないまま大きくなっていくために、他人からの指示がなければ行動しようとしないう『指示待ち人間』が多く生まれるのです。

ここに、自分で考え、決定し、行動するMACの授業に大きな意義があるのです。

(海外旅行記) ～風のブーツに履きかえて

第①回 日本・出発国

「いづくにもあれ、暫し旅立ちたるこそ、目覚むる心地すれ。」——『徒然草』

初めまして、こんにちは。四月に新しくMACの先生として来た、松田です。

去年まで十年余り東京の方に住んでいましたが、学生の頃から私は旅行が好きで、これまでいろんな国を旅して回ってきました。ざっと数えてみれば、四十数か国…。ここではそんな旅先での思い出話や、諸国にまつわる体験談などを色々紹介していこうと思います。

今回は第一回目ということで、まずは出発地から、すなわち本国である日本について始めてみましょう。海外へ向けて出国するのは、当然空港からになります。関西にいた頃は関空を何度か利用しましたが、ここ十年は専ら成田空港でした。空港にはたいてい休息所や横並びのイスが広く設けてあるので、夜なら(ホテル以外に)そこで仮眠・宿泊(?)ができます。

因みに成田空港は、真夜あたりで建物自体は閉鎖しますが、係員にパスポートの提示などすれば中で眠ることができました。海外では深夜1時・2時に着く便も珍しくないのですが、その場合はこの''空港泊''をよく活用したものです。

今思い出すところでは、アトランタやモスクワの空港、スリランカのコロンボ、イスタンブールのアタテュルク空港、などでしょうか。ただし全空港が24時間オープンなわけではないので事前に注意が必要です。

一度困ったのが、上海の浦東空港。成都からの国内便で上海・夜着だったのでそのまま空港に居てやろうと高を括っていたら、なんと夜一時をもって閉め出し！でもまた朝早く戻って来ないといけない。面倒くさいので、空港周辺の草っ原で野宿したことがありました。(中国はたしか北京のような大空港でも夜は閉められます。)

実を言うと、私は交通機関の移動に、毎回何かしら乗り遅れてしまいます。—— 鉄道・飛

行機・長距離バス・国の内外を問わず、一度の旅で最低一回はハマする始末…。さあ海外へ出発だ、という往きの飛行機からいきなり乗り損ねたことがありました。

もちろんチケットはペア… 急きょ新しいのを買い直し、二日遅れで発つ羽目に。さすがにこのときは己の悪癖に嫌気がさしました。

一般に、国際線のチェックインは出発時刻の2時間前が望まれていますね。いつか成田に35分前に着いたときには、自分よりスタッフのほうが大慌てになり、4・5人の女性誘導員に囲まれながらなんとか出国できました。

メキシコの空港から帰国する際も、30分前に怒涛の駆け込みでセーフ、これがエジプトに国が変わると、同じ30分前でもアウト！すげなく門前払い…。どうやら国によって閉め切り時刻も差があるようです。

アメリカでは、テロ以降かなりの厳戒態勢で3時間前が要求されます。それは知っていたので、ニューヨークで一時間前に手続きしようとする、仁王立ちしていた大きな黒人の女性警備員にひどく叱られました（ま、なんとか許してもらいましたが。）

一方で国内線に関しては、たいていどの国も数十分前にインして間に合うでしょう。

長年やり続けていれば何事も自分のスタイルというのが出来てきますが、私の旅の場合、基本的にツアーは頼まず、ノープランで行きます。もちろん目的の国は、あらかじめ強い思いと内的要請があつて決めています、具体的に何をするのか・どこをどう巡るかは現地に着いてからの楽しみ。泊まる宿さえそのときまかせです。

どうせ向うに行けば「初めてづくし」、日本とは勝手が違うし、全部予定通りにはいかない。また予定通りいったらあまり面白くないですね。何が起こるかわからないのが楽しい、旅の醍醐味なわけで。

そうしてもう一つ、モットーにしているのが「人との出会い」です。それもできるだけ多く現地の人と接するようにしています。観光も大事ですが、私が思うに、旅をするとは自分を新たに知ること、自分を知るとはまた人を知ることでもあり、いろいろな人と知り合うことによって、その都度新たな自分を発見・発掘していけるからです。

実際、旅先でのふれ合いを通して、自分の喜怒哀楽に意外な形で気付かされたりします。中には現地で会った人たちと、思いのほか親しくなることもあります。

昔ネパールで泊まったゲストハウスの主人は、いろいろ面倒を見てくれた上に（帰国後送り返せばいいと）現地でお金を貸してくれさえしました。

また、セブ島の自宅の前に立って涼んでいた男性は、道を訊いた私をバイクで送ってくれた半時間ほどの出会いでしたが、彼とはいまだにメールのやりとりが続いています。

旅先のふとした出会いが、自己発見にとどまらず、その人との更なる交流に、延いては背景にある文化や国の理解につながることもあるのです。

そう、旅に出会いはつきものです。邦人・外人に関わらず、たまたま席が隣になった人、あるいは宿が一緒だった人とその後も旅程を共にするかもしれません。帰国後さらに国際交流が深まる可能性もあります。

たとえば私事では、メキシコの安宿で、一晩だけ知り合い酒を共にしたオーストラリア人がいました。その一年後、彼が日本へ来ることになったので、浅草などの街案内をしてあげました。それから数年すると、今度は新たに彼の友達3人が豪州から来て会うことになりました。

ほかにも旅先の出会いではないですが、ちょっと変わった経験があります。

ある晩突然スカイプでかかってきた電話！見るとスイス人の女性からで、彼女はチューリッヒの社会人学生、日本・特に源氏や江戸文学に興味があるらしく、日本旅行を長らく計画中とのこと。二年後によく、友達と念願の初来日を果たし、東京では私と初対面することにもなりました（彼女達には文豪・谷崎の小説を贈呈しておきました。） このように、海外旅行を通して様々な人と出会い、不思議と交流が続いていきます。

仏教主流の日本では「人との縁を大切に」と言われますが、それは海外でも変わりありません。

毎日、太秦へ来るJR山陰線でも、様々な国籍の旅行者を大勢見かけます。先日は車内でいきなり“Does this train go to サガ～ノ？”と白人女性に訊かれました。そんな折にも、日本人として礼儀正しく接して、彼らとちょっと国際交流してみたいと思います。

さて、今回は長々と旅についての私見を書き連ねてきましたが、次から毎月・一か国ずつ、紙面で巡っていきたくと思います。～それでは、また。

Q. 来月
どの国？

〔関連語〕 ナイル、アラブの春、クレオパトラ、ルクソール、アスワン(ハイ)ダム、など…



〔首都〕 カイロ 〔通貨〕 ポンド